

梅若事跡

松若畧傳

弘化五年申夏

錦森堂

壽梓

竹取物語十一編

京山作

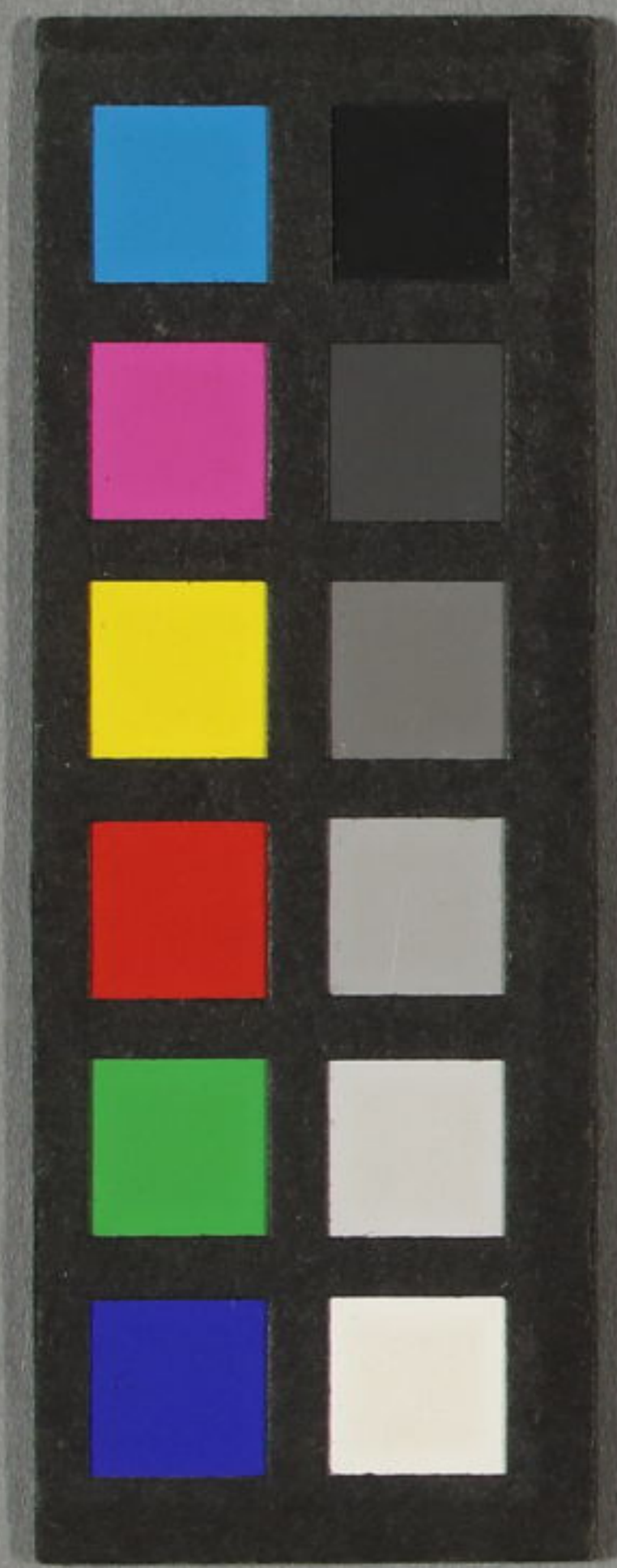
豊國画



門入

Gōkan: (No. 020)  
Taketori Monogatari.  
Part 3, Book 11-17.

13  
3690  
11





梅為分筆跡  
松若分略傳

戊申畫  
形梓

并取物決

十篇上

京山作

豊國盡

森浴板



山人國政画





京山作

無

治



豊國画  
京山作



竹取物語十一編



森治



門へ13  
號 3690  
卷 11

物語十一編上卷

世小付て竹馬の

梅若事蹟正史

北白河院の御宇花園左□臣公の御子小

梅若も御見立并寺小抄をてあまひ

あひけふ西膳上人と御く整りの中ふ

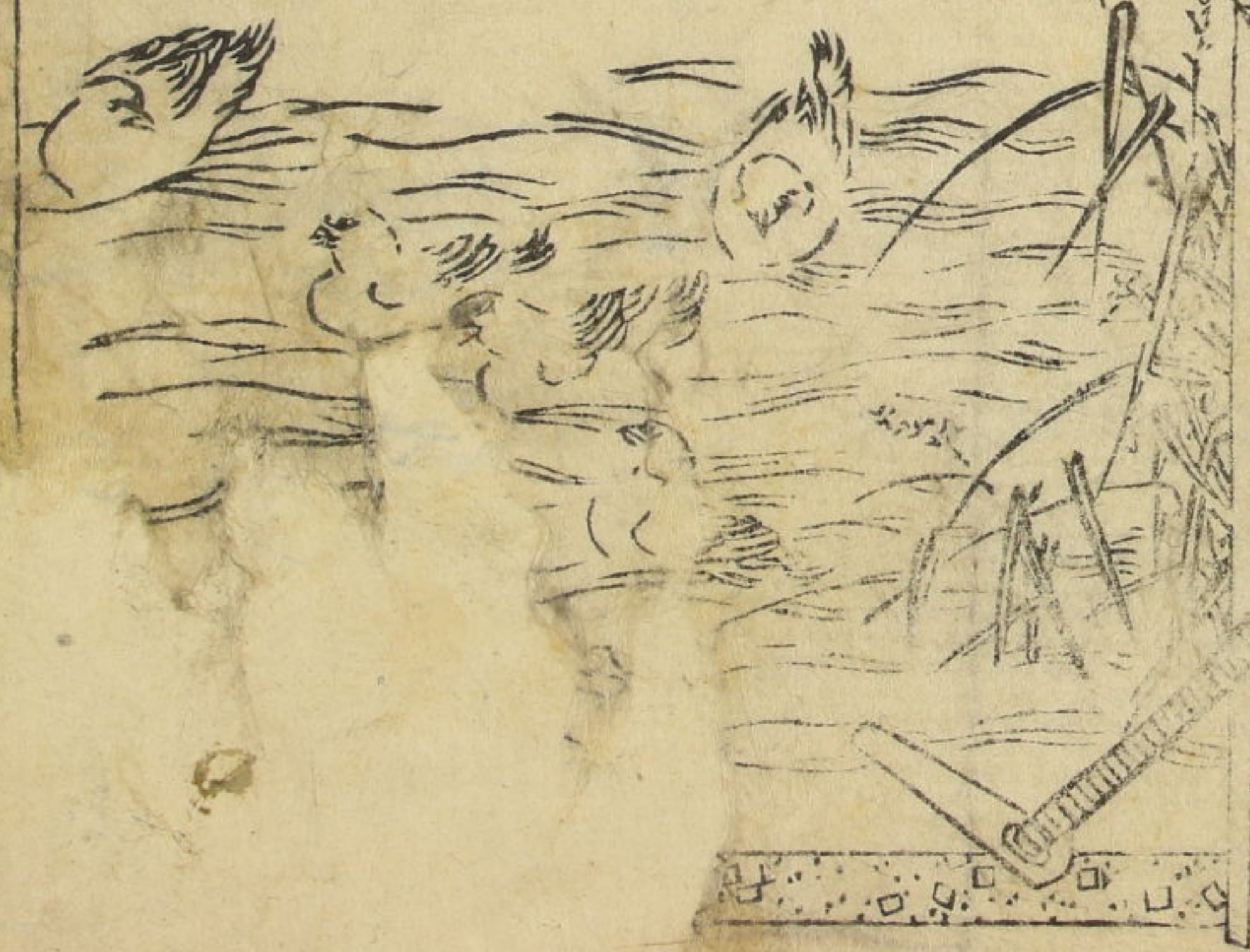
ゆゑありて梅若の梅より入水ありて

よふ秋の夜長物語といふ古き文小

ええりまひとあつ時代といふ可なり

北白河院末田某の公達子梅若とて

十一編





思れ抄にけり人曾る小敷きさそりま  
 東に下り隅田川の堤小あやみ跡一人置ふも  
 すそまきほひふけうなるじを里人ちんま  
 かまはほみのやうふるさうづめま  
 小くそりその中の柳はうなけるふさく梅  
 葉の舞ハ舞ありてむさうをさじらひく  
 ゆゑ志とびの人の實のみちのく  
 於てりけふまをさひをえたいむさうれ  
 出た東にさあまひすそり川ふるさうり  
 のふるさうまねらふうせうめれうとせ  
 あげ死あうう柳の葉はあうりけふ小梅  
 若く亡魂出くむさうとふさかひする  
 猿樂に作するまを隅田川とさうがの  
 うまの百あれらふ猿舞り按ふるさうれ

謡曲も抄やう東山殿間の抄ふるさう  
 うまの百あれらふ今ううと百十年あも人  
 け小膳大けんその梅あれ志うの柳を根あり  
 るやうの檢究りむがれうとありやあやの都  
 ち小同へ一あも十年あ梅葉のけれとさう  
 て竹園の接木ううはれも幸ひ小枝葉  
 葉まて今十一編のこすまよとのむすだうま  
 本はさうりけんもとけまがさうも又梅葉の  
 柳は接木ふりのちちんま

山東菴老人



弘化四年丁未仲秋稿本同仲冬上梓戊申春新板

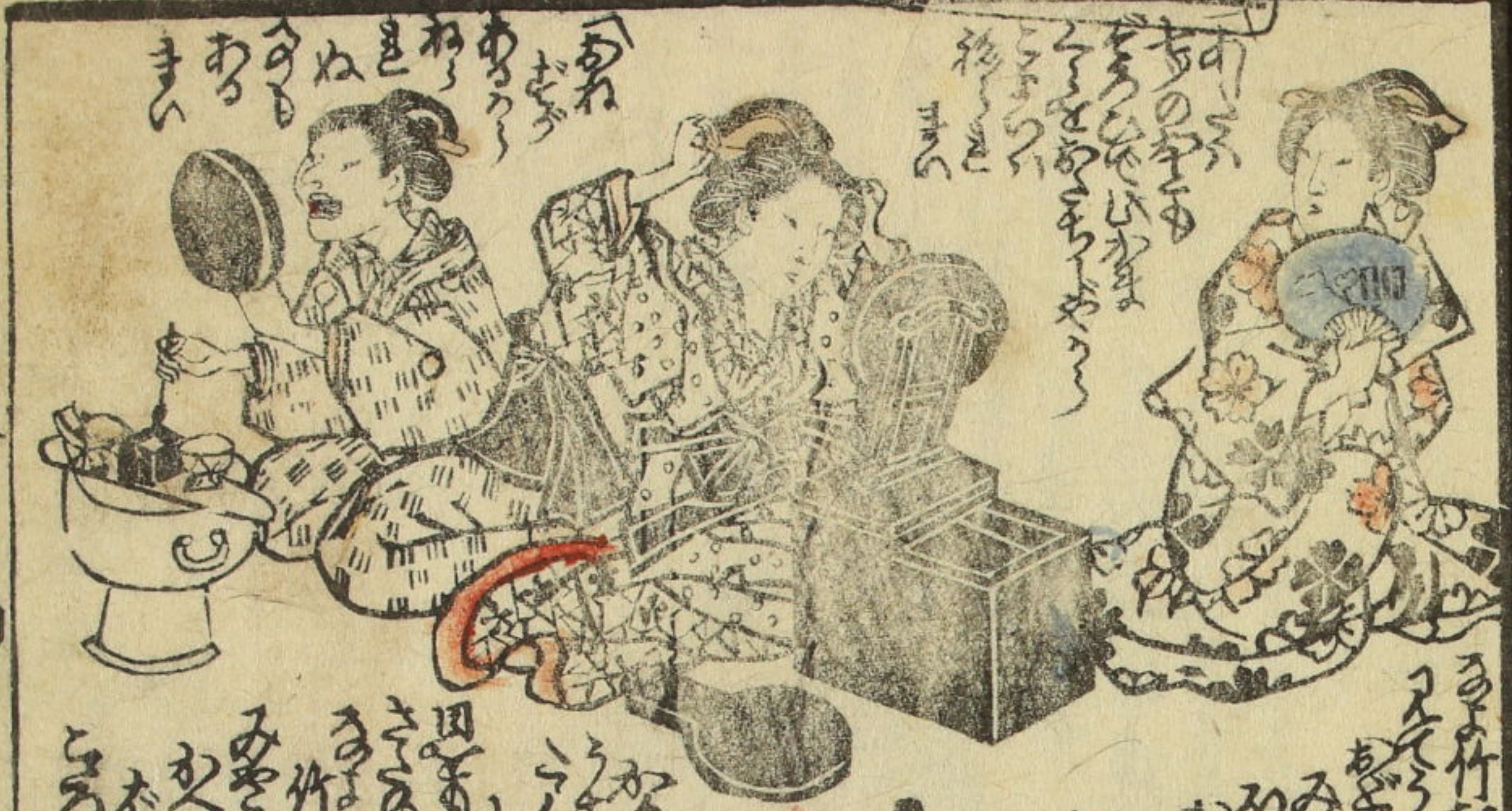


竹取お茶十をえしりつた十二をえ

竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ



竹取お茶十をえしりつた十二をえ



竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ  
竹取お茶十をえしりつた十二をえ



















ついでに...  
しりあ...  
あひ...  
あひ...  
あひ...  
あひ...

②...  
あひ...  
あひ...  
あひ...  
あひ...  
あひ...



けり...  
下...  
あひ...  
あひ...  
あひ...  
あひ...



①...  
あひ...  
あひ...  
あひ...  
あひ...  
あひ...



豊国画  
京山作



此の書は  
 世に用ひ  
 らるる  
 書也  
 其の  
 用ひ  
 方  
 法  
 等  
 記  
 載  
 あり  
 け  
 る  
 事  
 多  
 し  
 故  
 に  
 此  
 の  
 書  
 を  
 用  
 へ  
 る  
 者  
 は  
 必  
 ず  
 此  
 の  
 書  
 を  
 先  
 に  
 読  
 む  
 べ  
 し  
 下  
 の  
 書  
 は  
 其  
 の  
 後  
 に  
 読  
 む  
 べ  
 し  
 此  
 の  
 書  
 は  
 京  
 山  
 作  
 也  
 豊  
 國  
 画  
 也  
 人  
 々  
 之  
 を  
 用  
 へ  
 る  
 事  
 多  
 し  
 故  
 に  
 此  
 の  
 書  
 を  
 先  
 に  
 読  
 む  
 べ  
 し  
 下  
 の  
 書  
 は  
 其  
 の  
 後  
 に  
 読  
 む  
 べ  
 し



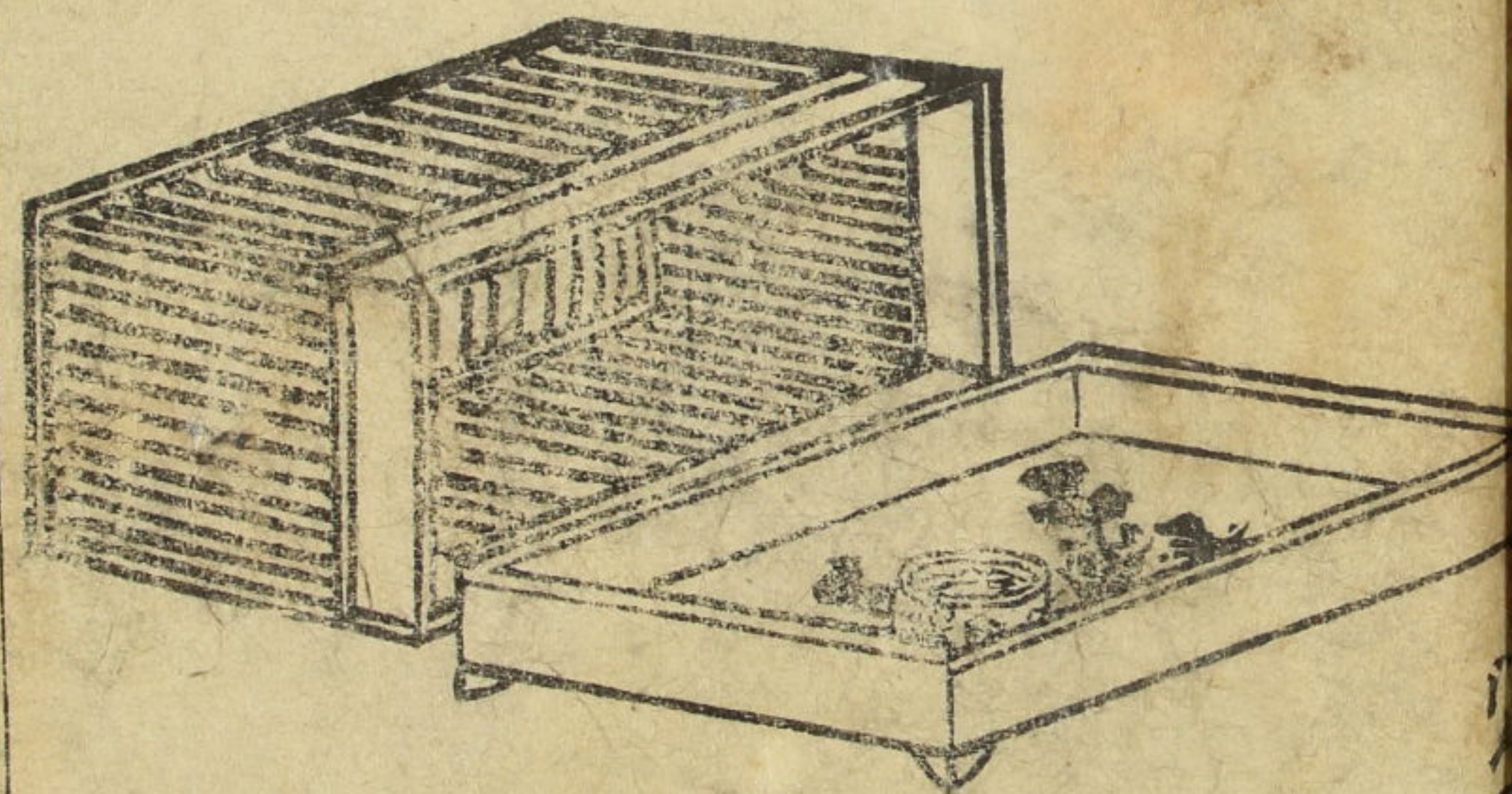
丹波の里十

一巻入の下

京のさき

のよ園盡

本林彦枚



















① 竹垣の影に  
 月影をうつし  
 梅の花は  
 春の風を  
 かき散らす  
 人の心は  
 何處に  
 行くか

② 竹垣の影に  
 月影をうつし  
 梅の花は  
 春の風を  
 かき散らす  
 人の心は  
 何處に  
 行くか

③ 竹垣の影に  
 月影をうつし  
 梅の花は  
 春の風を  
 かき散らす  
 人の心は  
 何處に  
 行くか

④ 竹垣の影に  
 月影をうつし  
 梅の花は  
 春の風を  
 かき散らす  
 人の心は  
 何處に  
 行くか



















① 竹馬十一郎の事  
 竹馬十一郎は、  
 江戸の有名な  
 歌舞伎役者で、  
 竹馬十郎の弟で、  
 竹馬十郎の死後、  
 竹馬十一郎は、  
 竹馬十郎の跡を  
 継ぎ、竹馬十郎  
 の名で活躍した。  
 竹馬十一郎は、  
 竹馬十郎の死後、  
 竹馬十一郎は、  
 竹馬十郎の跡を  
 継ぎ、竹馬十郎  
 の名で活躍した。



② 竹馬十一郎の事  
 竹馬十一郎は、  
 江戸の有名な  
 歌舞伎役者で、  
 竹馬十郎の弟で、  
 竹馬十郎の死後、  
 竹馬十一郎は、  
 竹馬十郎の跡を  
 継ぎ、竹馬十郎  
 の名で活躍した。

③ 竹馬十一郎の事  
 竹馬十一郎は、  
 江戸の有名な  
 歌舞伎役者で、  
 竹馬十郎の弟で、  
 竹馬十郎の死後、  
 竹馬十一郎は、  
 竹馬十郎の跡を  
 継ぎ、竹馬十郎  
 の名で活躍した。

④ 竹馬十一郎の事  
 竹馬十一郎は、  
 江戸の有名な  
 歌舞伎役者で、  
 竹馬十郎の弟で、  
 竹馬十郎の死後、  
 竹馬十一郎は、  
 竹馬十郎の跡を  
 継ぎ、竹馬十郎  
 の名で活躍した。



⑤ 竹馬十一郎の事  
 竹馬十一郎は、  
 江戸の有名な  
 歌舞伎役者で、  
 竹馬十郎の弟で、  
 竹馬十郎の死後、  
 竹馬十一郎は、  
 竹馬十郎の跡を  
 継ぎ、竹馬十郎  
 の名で活躍した。

⑥ 竹馬十一郎の事  
 竹馬十一郎は、  
 江戸の有名な  
 歌舞伎役者で、  
 竹馬十郎の弟で、  
 竹馬十郎の死後、  
 竹馬十一郎は、  
 竹馬十郎の跡を  
 継ぎ、竹馬十郎  
 の名で活躍した。











